

Ⅱ 教育活動の概要

1. 平成3年度カリキュラム運営

カリキュラム委員会委員長 藤井 宏一

平成3年度のカリキュラム委員会は、生物環境、生産環境、環境改善分野の委員が交代し、他の分野の委員は留任した。本年度の主な特徴は、環境科学特別講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲをすべて学内教官が担当したこと、特にⅠ、Ⅱは本研究科のプロジェクト研究成果を踏まえて開講したことなどである。

(1). 新入生ガイダンス

昨年とほぼ同様の方針で、以下のような日程で開催した。

ガイダンス日程表

	午 前	午 後
8日 (月)	入学式(10:00~10:26)	新入生ガイダンス(13:00~) C103 1. 研究科長挨拶 (13:00~) 2. 全体の概要と諸注意 3. カリキュラム関係の概要説明(13:30~) 4. 共通科目の概要説明 (14:00~) 5. 環境科学実習の説明 (14:15~) 6. 就職委員会の概要説明 (14:45~) <休憩10分> 7. 教職員の紹介(各自1分) (15:10~) 8. 新入生自己紹介(各自1分)
9日 (火)	分野別ガイダンス C103 自然環境(9:00~) [河村, 古藤田, 安仁屋, 松本(栄), 安成, 甲斐, 小林, 田瀬, <鈴木>] 生物環境(10:00~) [岩城, 高野, 藤伊, 藤井, 及川, 高橋, 前田, 斉藤, 中村(徹), 鷺谷, <腰塚>] 生産環境(11:00~) [石塚, 河野, 多田, 臼井, 田中, 手塚, 東, 前川, 森下, 佐久間, 関, 久島, 松本(宏), <池口>]	広領域カリキュラムのガイダンス(13:00~) C103 [中村(以), 梶] 分野別ガイダンス C103 環境改善(13:40~) [中村(以), 日下部, 中原, 藤木, 小沢, 国府田, 下藤, 佐藤(親), 島田] 環境政策(14:40~) [河野, 中山, 北島, 佐藤(俊), 安田, 吉川, <森島>] 環境計画(15:40~) [糸賀, 池原, 梶, 黒川, 小出, 谷村, 土肥, 天田, 石田, 岩崎, 石見, 熊谷, 小泉, 佐藤(洋), 田島, 日端, 小場瀬, 田村, <渡辺>]
10日 (水)	2年生修士論文テーマ発表会 C103 (9:00~12:50, 13:30~15:25) 発表時間:一人3分(発表1分30秒, 質問1分30秒) 口頭により学籍番号順に発表する。	2年生ガイダンス<2年生> C103 (15:30~16:30) 1. 研究科長挨拶 2. 就職について 3. カリキュラム・修論について

(2). 2年生の研究テーマ発表と研究計画の登録

標記事項は、4月10日(水)9:00~15:25に開催し、以下のとおりとりまとめられる。

なお、欠席者は、修論担当教官によって確認されたため、研究計画の登録が行われたものと認定した。

4月1日現在

在籍者	113名
(内 休学者)	4名)
発表者	99名
欠席	10名
欠席届及び修論計画書提出	7名
退学予定者	1名
1学期末修了予定者	1名
修論テーマ未定者	1名

(3). 環境科学Ⅰ・Ⅱ

共通必修科目である環境科学Ⅰ・Ⅱは、岩城教授・梶教授をそれぞれ世話人として以下のような内容で実施した。

平成3年度

「環境科学Ⅰ，Ⅱ」の授業計画

	環境科学Ⅰ	世話人 岩城英夫	
	月 日	テーマ	担 当
1)	4月15日	大気環境	河村 武
2)	4月22日	地水環境	古藤田一雄
3)	5月13日	海洋環境	高野 健三
4)	5月20日	化学物質と環境	手塚敬裕・臼井健二
5)	5月27日	土壌環境	多田 敦
6)	6月3日	陸域生態系	及川 武久
7)	6月10日	水域生態系	前田 修
8)	6月17日	環境と人間	下條 信弘
9)	6月24日	<期末テスト>	岩城 英夫

環境科学Ⅱ 世話人 梶 秀樹

—— 人間と環境との関わり ——

	月 日	テーマ	担 当
1)	4月12日	国土と人間	小泉 允罔
2)	4月19日	災害への対応	天田 高白

3)	4月26日	資源としての環境	北島 能房
4)	5月10日	都市と農村	佐藤 洋平
5)	5月17日	緑と人間	糸賀 黎
6)	5月24日	環境と心理	田島 学
7)	5月31日	住いと環境	日端 康雄
8)	6月7日	空間と移動	石田 東生
9)	6月14日	都市の設備1	谷村 秀彦
10)	6月21日	都市の設備2	中村 以正

(4). 修士論文中間発表

研究科全体の中間発表会を9月4日(水)9:00~15:30に開催した。以下のとおりまとめられる。
分野別中間発表会は、9月~11月にわたり各分野で開催された。

在籍者	110名
(内 休学者	5名)
発表者	93名
欠席	12名

(5). 環境科学特講

環境科学の最新の諸問題をトピックスとして取り上げる環境科学特講は、本年度はⅠ~Ⅲを開講した。特講Ⅰは「茨城県南地域整備計画とその課題」、特講Ⅱは「東南アジアの自然環境保全/回復と地域開発」として、それぞれこれまでになされてきた環境科学研究科プロジェクトの成果を基にして、学内の教官が担当した。また、特講Ⅲは「農村環境」と題して、学内の教官が担当した。なお、世話人教官はⅠは黒川教授、Ⅱは久島講師、そしてⅢは小出教授があたった。

環境科学特講Ⅰ 『茨城県南地域整備計画とその課題』

テーマ	担当者	月 日
1. 県南地域の首都圏における位置づけ その期待と課題	黒川 洸	12月18日
2. 新規人口増に係わる諸問題	熊谷良雄/石見利勝	1月8日
3. 県南地域の交通網：計画、整備	石田 東生	1月22日
4. 市町村行政からみた変化	小泉 允罔	1月29日
5. 県南地域における土地利用の変容	佐藤洋平/梶 秀樹	2月12日

この講義は上記の水曜日の3, 4限に開講した。

環境科学特講Ⅱ 『東南アジアの自然環境保全／回復と地域開発』

概要：環境科学研究科プロジェクトとして“タイ問題土地帯の植生回復に関する環境生化学的アプローチ”を取り上げ、マングローブ、サゴヤシ、その他の植物の生存環境に関する研究、利用に関する研究、大量増殖に依る植林の可能性、環境ストレス耐性植物の作出による、生産の回復、ストレス環境に耐える植物の探索等を実験研究・調査研究してきた。これらについて紹介したい。同時に、自然環境回復は地域振興と結びついて効果があると考えられ、アジアの地域開発の例を紹介する。

テーマ	担当者	月 日
1. 東南アジアの自然環境保全 ／回復と地域開発		
—植物組織培養技術を中心に—	久島 繁	12月7日午前
2. 東南アジアの土壤		
—マングローブ林下の土壤	東 照雄	12月7日午後
3. 地域開発と環境問題		
—東南アジア諸国を事例に および、タイ農村地域における 生活林育成について—	大矢 釵治	12月21日午前
4. 植物の環境ストレスと耐性	白井 健二	12月21日午後

環境科学特講Ⅲ 『農村環境』

概要：農村は主として農業生産の場であったが、最近では環境を保全する場としても重要視されるようになった。これからの日本の農村がどうあるべきかについて講義していく。

テーマ	担当者	月 日
1. 農村の環境	小出 進	10月2日
2. 農村地域の水質汚染と水利用	佐藤 政良	10月9日
3. 水田の環境(1)	多田 敦	10月16日
4. 農村の生活環境整備	佐久間泰一	10月23日
5. 水田の環境(2)	多田 敦	10月30日
6. 流域管理計画(1)	天田 高白	11月6日
7. 流域管理計画(2)	天田 高白	11月13日
8. つくばの緑化	大坪 輝夫	11月20日
9. 土地利用計画	佐藤 洋平	12月4日
10. 農村の環境「まとめ」	小出 進	12月11日

この講義は上記の水曜日の第 5 時限に開講された。

(6) 修士論文発表会

昨年度に引き続き、カリキュラム委員会が担当して、平成 4 年 2 月 6, 7 日の 2 日間にわたって、1 人当たり 16 分(発表 12 分, 質疑 4 分)の発表会を行った。

在籍者	110名
発表者	90名
留年者	16名(内 休学中 5 名)
退学者	4名
修了者	90名